

# 在宅医療・介護連携推進事業

医療と介護が連携して、地域住民の療養や生活を支援する取り組みを行っています。

ご自由にお取り下さい



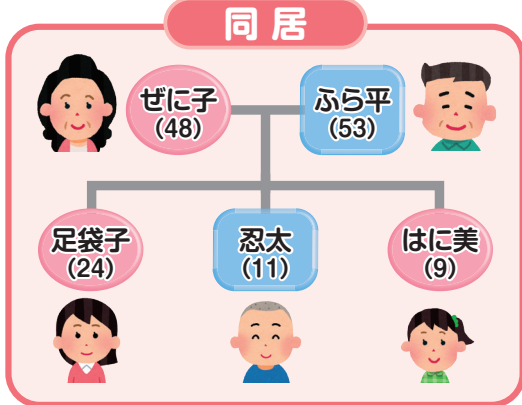
第4号誌

2019年 [制作・発行]

- 行田市在宅医療・介護連携推進協議会
- 行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当

TEL.048-556-1111  
(内線 338・278)

## 同居



2018年

行田市にお住まいのふら平さん一家。

そして30年後…

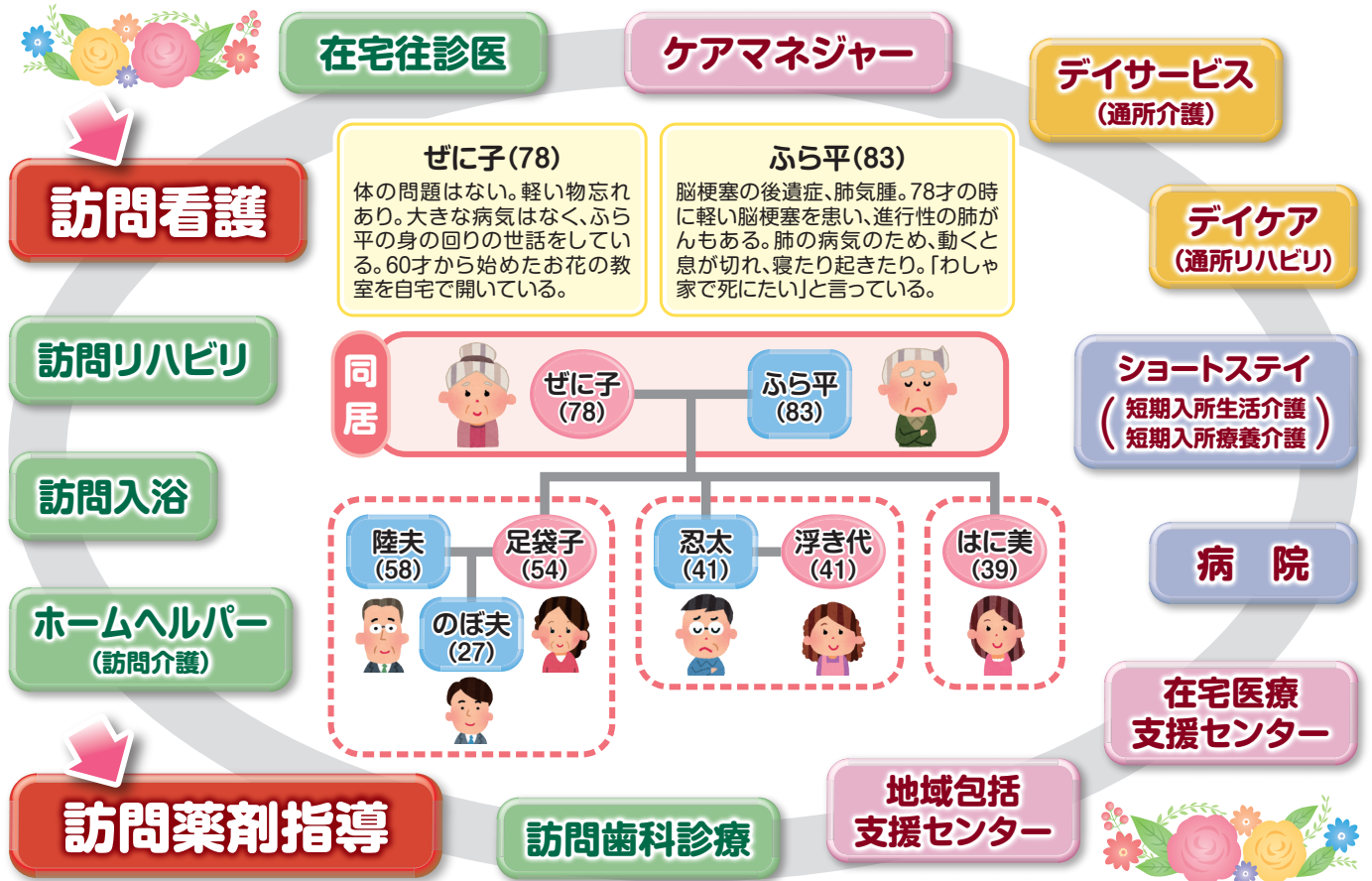
30年後のふら平さんは、だいぶ体が不自由になってきています。

第2弾!

ふら平さん  
サポート大作戦!

そんなふら平さんを支えるために、医療・介護の専門職がどのように関わっていくのかをご紹介します。

## 30年後(2048年)のふら平とぜに子



今回は“訪問看護”と“訪問薬剤指導”に注目してみましょう。

# 在宅療養を希望するふら平さんを支えるために…

30年後のふら平さん(83歳)

脳梗塞の後遺症、肺気腫を患っており、  
病院への通院も困難に…

わしゃ家で死にたい!  
住み慣れた自宅で最期まで暮らしたいんじゃ…

自宅で生活するためには、  
医療的なことが心配なのよ…

薬の飲み忘れや、  
飲みにくい薬があって心配なのよ…

そんな時は…  
**看護師**がサポートします!

**訪問看護**

**訪問薬剤指導**

そんな時は…  
**薬剤師**がサポートします!



## 訪問看護ってなに?

医師の指示のもと、看護師が定期的に患者様のご自宅へ伺い、全身状態のチェックやリハビリ、療養上のお手伝いをします。

### こんな方が利用できます

- 病気や障害をもちながら、ご自宅で療養する方  
(主治医からの指示書が必要)

### こんなことができます

- 健康状態の観察(血圧・体温・脈拍等の測定)
- 医療処置(医師の指示による)
- 身体の清潔、排泄支援、食事・栄養の支援や指導
- リハビリ(機能維持・回復・拘縮予防)
- 介護相談(介護方法・不安やストレスの相談・介護用品の相談)
- 終末期ケア、お看取り(痛みの緩和・精神的なケア)

※介護保険・医療保険 いずれかがご利用いただけます。



## 訪問薬剤指導ってなに?

薬剤師がご自宅に伺い、お薬の効き目や服用上の注意点などをご本人に直接説明し、適切に服用できるようにお手伝いします。

### こんな方が利用できます

- お薬の管理が困難で、  
医師が“薬剤師の訪問が必要である”と認めた方

### こんなことをします

- お薬の説明
- 保管方法、残薬の確認
- 服薬方法の検討
- 副作用の確認
- 他の医療機関から処方された薬や、ドラッグストアなどで購入した健康食品やサプリメントとの飲み合わせの確認
- 内服薬の一包化(服用時などを明記)
- 医療材料やおむつなどの介護用品についてのご相談



利用を希望される方、お問い合わせ等については、  
主治医 または 在宅医療支援センター までご相談ください。

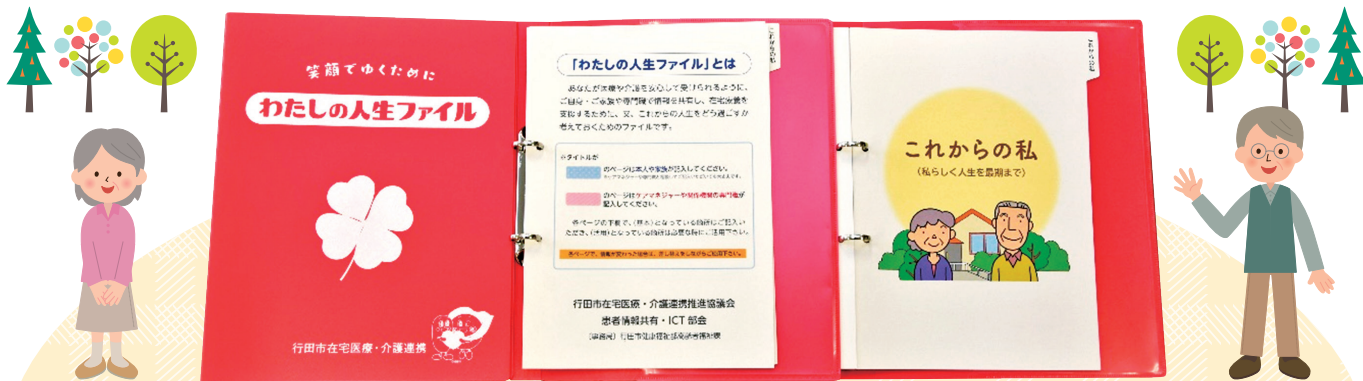
TEL  
048-553-2003



次回

“訪問リハビリ”についてご紹介します。





## 「わたしの人生ファイル」が発行されます

「わたしの人生ファイル」は、療養や介護が必要になっても、あなたの人生を笑顔で歩んでいただくために作成されました。

ご自身に関わる大切な情報を書き留めておくことによって、療養や介護が必要になった時に、ファイルの情報を基に専門職がどう支援するかを考え連携してサポートすることができます。また、「これからの私」はこれからの人生をあなたがどう送りたいか、心の中の想いを身近なご家族や療養支援にあたる医療、介護の支援者に知らせておくことで、あなたの心に最期まで寄り添い支援することができるようになります。

「わたしの人生ファイル」についてのお問い合わせは、**行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当** もしくはお近くの **地域包括支援センター** までお願いします。

患者情報共有／ICT部会

## 研修部会 (ふらっと) 研修報告

平成30年度 第3回研修会 「医療・介護の連携強化に向けた 施策動向とそのポイント」

平成31年3月15日、行田市商工センターにて、埼玉県立大学教授の川越先生を講師にお迎えし「医療・介護の連携強化に向けた施策動向とそのポイント」について研修会が開催されました。医療・介護の各分野から107名の参加がありました。

先生は冒頭で行田市の人口構造に触れ、2045年には行田市の人口が5万2千人まで減少し、65歳以上の人口と支え手の人口がほぼ同等になるという衝撃的な数字を示されました。会場から驚きの声が漏れ、危機感は一気に高まりました。

行田市の人口構造の変化に耐えうる医療と介護の連携の在り方について、何がポイントで、何が求められるかを、簡潔明瞭に説明されました。「各専門職が、地域内の様々な資源(医療・介護サービス・近隣の助け合い等)を総動員し、自らの役割を認識して機能を果たすことができれば、限られた人材でより多くの人々の支え手になることができる」というお話をいただきました。参加された方からは、「とてもわかりやすく、連携の大切さがよくわかった」、「もっと早く聞きたかった」という声も聞かれ、行田市の医療・介護に関わる皆さんの意欲と意識の高さを感じることができました。地域包括ケアシステムについてご研究されている第一人者の川越先生が、研修の前に「医療・介護連携協議会を立ち上げてここまでしっかり取り組まれている所は県内でも数か所しかありませんよ」と言ってくださいました。

意識の高い医療・介護の関係者の方と一緒に行田市で仕事ができることを誇りに感じたひと時でした。

行田市医療・介護連携推進協議会 副会長 藤井 尚子



「行田人(ぎょうだびと)」は、市内医療機関、歯科医院、薬局、介護事業所、市役所窓口等で配布しております。ご希望の方は各機関の窓口にてお申し出ください。

